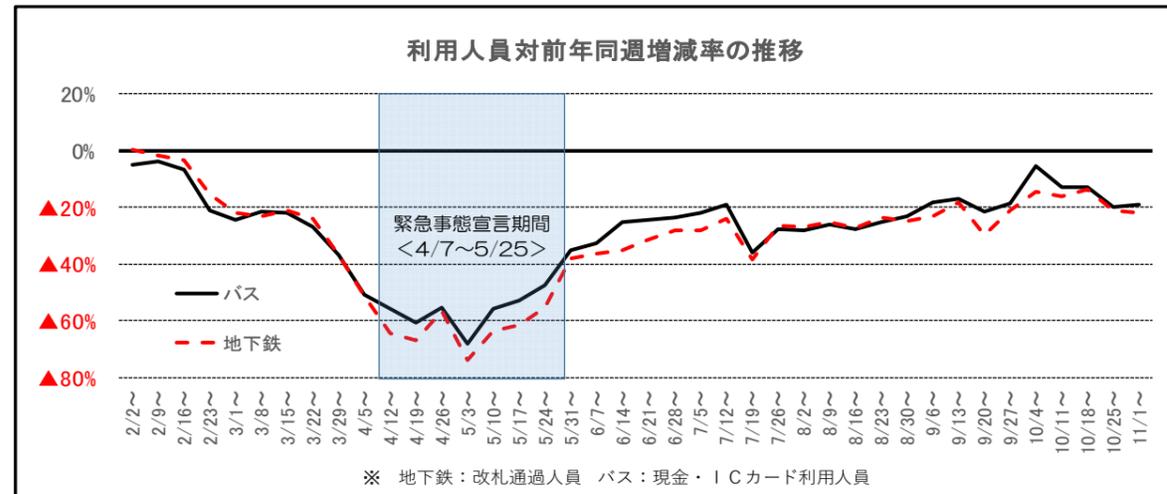


新型コロナウイルス感染症による市営バスへの影響と今後の取組について

I 新型コロナウイルスのバス事業への影響

緊急事態宣言期間中の大幅なご利用減から一時は回復の兆しがありましたが、前年同時期と比較すると、お客様の乗車は概ね2割前後減少が続いています。

このため、乗車料収入の減収額（前年度比）は、9月までの上半期で23億1千6百万円（22.7%減）に拡大しています。今後もお客様の減少傾向は継続すると見込まざるを得ず、市営バス事業の経営に深刻な影響を及ぼすと考えています。



II これまでの取組と今後の対応

1 路線バス

新型コロナウイルスの影響下においても、原則として平常ダイヤでの運行を継続してきましたが、夏季期間において、本牧エリアを中心に、運行便数の適正化を図る取組を試行的に実施しました。

この結果を踏まえ、11月4日にダイヤ改正を実施したところであり、今後も各エリアにおいて同様の取組を検討していきます。【別紙資料参照】

(1) 11月4日ダイヤ改正の実施内容

中・本牧エリア（Fエリア）を運行する路線をはじめ、鶴見・港北エリア（Cエリア）においてもダイヤ改正を実施しました。

〔ダイヤ改正による運行状況の変化〕 ※実車キロ及び運行便数は、平日1日あたりの削減数

		改正前	改正後	増▲減	増減率
中・本牧エリア (8・58・99・105・ 106・148・156・158 系統)	実車キロ(回送除く)	8,454.6 km	7,144.1 km	▲1,310.5 km	▲15.5%
	運行便数	838 便	737 便	▲101 便	▲12.1%
	年間実車走行キロ			▲457,185 kmの減	
鶴見・港北エリア (6・14・59・67・ 104 系統)	実車キロ(回送除く)	2,456.4 km	2,246.3 km	▲210.1 km	▲8.6%
	運行便数	283 便	260 便	▲23 便	▲8.1%
	年間実車走行キロ			▲68,948 kmの減	

(2) 今年度末のダイヤ改正に向けて

「保土ヶ谷・緑エリア（Dエリア）(39・56・62・92 系統など)」及び「港南・磯子エリア（Gエリア）(45・64・112 系統など)」の2つのエリアにおいて、路線や運行便数の見直しを行ってまいります。

引き続き、各エリアにおいて、お客様の動向に応じて市内を運行する他のバス事業者の対応も見極めながら、行先・経路の見直しや、最寄駅までの輸送に特化した路線短絡、運行便数の見直しなどを検討していきます。

2 観光事業

(1) 観光周遊バスあかいくつ乗車料収入の状況

あかいくつの乗車料収入について、今年度の累計を昨年度と比較すると約86%の減となっています。こうした状況を踏まえ、現在、平日は1時間に1便、土休日は1時間に3便に減便しています。

(単位:千円(税込))

	令和2年度	元年度	増▲減	増減率
9月	1,985	10,081	▲8,095	▲80.3%
10月	2,190	8,189	▲5,999	▲73.3%
累計(4-10月)	9,963	70,539	▲60,576	▲85.9%

(2) あかいくつ利用促進の取組

GoTo キャンペーンなどを活用した利用促進や、みなとみらい地区で開催されるイベントにあわせた運行時間の延長等を行っています。

今後、お客様の数や沿線地域への観光客数の動向を踏まえ、増便等を検討してまいります。

3 貸切事業

(1) 貸切事業収入の状況

10月までの貸切事業収入は、1億4千2百万円であり、昨年度比、約1億2千5百万円（約47%）の減となっています。

(単位:千円(税込))

		令和2年度	元年度	増▲減	増減率
一般貸切	10月	8,636	13,907	▲5,271	▲37.9%
	累計	30,084	100,169	▲70,085	▲70.0%
企業貸切	10月	22,905	24,339	▲1,434	▲5.9%
	累計	112,441	167,930	▲55,488	▲33.0%
計	10月	31,541	38,246	▲6,705	▲17.5%
	累計	142,525	268,098	▲125,573	▲46.8%

(2) 貸切バス利用促進の取組

客船の運航再開に合わせ、送迎シャトルバス運行や乗船客向け横浜観光ツアーを実施しているほか、市内経済の活性化にも寄与する地元横浜応援企画ツアーを現在までに延べ15回開催しています。

今後も、GoTo キャンペーンやFind Your Yokohama キャンペーンなどを活用した貸切バスツアーを積極的に展開してまいります。

